

## 第14回多摩市自治推進委員会 要点記録

平成27年1月23日（金） 18:30～20:45

多摩市役所3階 特別会議室

出席者：安藤委員長、松本副委員長、川添委員、小嶋委員、横山委員、田中委員

事務局：企画政策部長、企画課長、企画課主査、企画課主事

審議：報告書に関する検討について

□開会

委員長 前は、報告書の構成（案）・作成イメージ（案）等について議論した。そして、大枠として、報告書の構成を決定した。報告書の構成については、今後細かな修正はあるかと思うが、この方向性で進めていきたい。

今回は、前回の議論を踏まえて、事務局で報告書（案）を作成している。本日は、この案についてご意見をいただきたい。

まずは、事務局に説明をお願いする。

事務局 配付資料について事務局から説明を行った。

委員長 「資料1 報告書の作成イメージ（案）」について、全般的な意見はあるか。

副委員長 全体として、硬い言葉と柔らかい言葉が交じっている印象があり、何となく統一感がない。「ゆる～く考えてみませんか」と呼びかけるのであれば、全て柔らかい言葉で書くべきである。

委員長 目安としては、中学生が読んでもわかりやすい言葉づかいが良いのではないか。

委員長 次に、表紙について意見はあるか。

委員 階段の絵は、上に行けば行くほど、幅が広がるようにしてみてもどうか。

委員長 夢を描きながら、広がっていくイメージである。

委員長 続いて、2～3ページについて、意見はあるか。

副委員長 2～3ページは、日本の中の多摩市の位置づけを載せている。全国的な視点で見たときの、多摩市のイメージが載せられると良い。

委員長 また、この報告書では、主に若い年代に対してアピールできると良い。

委員 若い人が、多摩ニュータウンに対して持つイメージは、ジブリ映画の「平成たぬき合戦ぼんぼこ」かもしれない。

委員長 そうしたニュータウンの新しいイメージだけではなく、昔からのものをもっと載せられると良い。

委員 2ページの地図は、隣接市も記載すると、多摩市の位置関係がわかりやすくなる。

委員長 電車の路線以外にも、バス路線図などが載ると、市内を網の目状に移動できることがわかって良い。

委員 3ページの「市のちょこっとデータ」には、「市の見所」を掲載すると良い。例えば、市内

各所の桜などは、見所の一つである。

委員長 その他にも、「歴史的人物」、「歴史を感じられる場所（よこやまの道など）」、「文化財」、「多摩市を舞台にした小説」などが考えられる。

委員 また、人口の内訳（男女、子ども、高齢者の数など）も載ると良い。

委員長 3ページのふきだしも、もっと工夫すべきである。

委員長 次に、4～5ページの「たま市の12ヶ月」について、意見はあるか。

委員 イベントだけでなく、花などの情報も載せると良い。花は観光資源になる。例えば川井家（鶴牧西公園）のしだれ桜は有名である。

委員長 京都の「京ナビ」というサイトが、花ごよみ、花の名所などを掲載していて、参考になるかもしれない。

委員 また、人の動きがもっとわかるような写真を掲載すると良い。例えば、「多摩市水辺の楽校」の、手づくりのイカダに乗るイベントには、多くの人関わっている。

委員 その他にも、「地域ふれあいフォーラム」や、「NPO 法人多摩子ども劇場」主催のイベントなどもある。

委員長 一年を通じて魅力があることを示すために、毎月一つ以上のイベントや風景等を掲載してはどうか。定例的なもので、かつ、歴史や文化を感じられるようなものが良い。

副委員長 一方で、この報告書は観光ガイドブックではないので、イベント等の紹介を最小限に留める必要がある。

委員長 掲載できない分は、ホームページに載せると良い。いずれにしても4～5ページは、多摩市を一言で表すようなページにできると良い。

次に、6～7ページについて意見はあるか。

委員 6ページの「はじめに」で、「たましのこと、ゆる～く考えてみませんか」とあるが、この冊子の狙いは、実際にまちに関わっていただくことではないか。次ページ以降のつながりを考えると、「ゆるく考える」のではなく、「まちに関わる」といった言葉にした方が適切ではないか。

委員長 一方で、「関わる」という単語は、一度関わりと引けなくなるというイメージがあり、全く何もしていない人にとっては、ハードルが高い言葉かもしれない。

委員 「たましのこと、ゆる～く考えてみませんか、そして参加してみませんか」などとしてはどうか。

委員 または、「まちに関わる」ではなく、「まずは、知ることから始めてみませんか」と表現することも考えられる。

委員長 確かに、10ページから19ページは、まちを知る部分とも読める。20ページ以降からまちに関わることを始めている。そう考えると、「知る」という単語が適切である。

委員 7ページの事例には、どんな事例を入れることを想定しているのか。

副委員長 自治の推進に関する事例を掲載すべきである。様々な分野で自治の事例があることを示すと良い。

委員長 その際には、4～5つの分野に分類してはどうか。「資料2 検討事例（案）」の主な活動分野に沿って考えると、「生活・福祉・子育て」、「文化・アート・歴史」、「自然・環境」、「防犯・防災・まちづくり」、「産業・教育」などに分けられる。

- 委員 個人的には、若者が地域とのつながりを持つと、将来的に、地域での雇用につながる可能性があるという点で、創業支援や地域活性化などの分野も取り上げるべきだと思う。
- 委員長 事例の紹介方法については、写真の下にコメントを2～3行つけるイメージである。
- 副委員長 事例の選定にあたっては、市民が気軽に始められるものが良い。ワンワンパトロール、アダプト制度、ごみ拾いウォーキングなどが候補となるのではないかな。
- 委員長 次に、10～11ページについて、意見はあるか。  
10ページの写真は、多摩ニュータウン地域だけではなく、市の全体を見渡せるような写真が良い。  
続いて、12～15ページについて、意見はあるか。  
12～15ページの「たまイトコ」については、もっと具体的な情報を載せられると良い。スペースの都合で難しい場合には、巻末の「おとくな情報」で取り上げれば良い。例えば、「おじいちゃんおばあちゃんが元気！」の部分では、「〇〇さん語る」など具体的な事例が載せられると良い。また、大学が多くあることは多摩市の強みであるので、もっと強調できると良い。  
続いて、16～17ページについて、意見はあるか。
- 委員 16～17ページの「たまの気になるところ」では、前のページとのつながりをもっと意識して記載すべきである。
- 委員長 常に前や後ろの情報と連動する形で記載すべきである。  
18～21ページについて、意見はあるか。
- 副委員長 「教えて！M先生」の部分は、一番最後に掲載すべきではないか。先生に困ったことを聞きに行くのは、自治の事例らしくない。ストーリーの構成として、まずはたまり場へ行く方が自然ではないか。
- 委員長 では、「たまり場」をQ&A的な扱いにして、先に掲載してはどうか。  
また、「教えて！M先生」は、事例検討の後に全体を通して感じた疑問を先生に聞きに行くストーリーにして、後ろの方に掲載してはどうか。
- 副委員長 確かに、色々なことを書き込むよりは、巻末でフォローした方が良い。
- 委員 20ページの「たまり場」とは、どのような場所を指しているのか。
- 委員長 みんなが一緒にいられる空間のことで、カフェのような場所だけではなく、イベントなどの機会も含む。「地域の縁側」などとも言う。「たまり場」の定義について、どこかで書き込む必要がある。  
次に、22～25ページの「まちのものがたり」についてである。事務局案では、まちづくりの過程を、「点（人からはじまる）」、「線（人とつながる）」及び「面（みんなで広がる）」で示している。
- 副委員長 どの事例にも、点・線・面の段階がある。一つの事例で、点・線・面の段階を示せると良い。また、事例は人を軸にして考えるとわかりやすい。例えば、資料2の「タマラボ（ワークショップ型コミュニケーションカフェ）」の事例では、一人でカフェを立ち上げ（点）、そしてその活動が人と人とのつながりを生み出し（線）、やがて面的に広がっている。
- 委員長 事例によって、それぞれの段階の強弱はあるが、全部で4～5つの事例が入れられると良い。

- 委員           また、事例検討においては、いつでも、だれでも参加できることを示すべきである。
- 副委員長       そう考えると、必ずしも立ち上げた人を取り上げるのではなく、途中から参加した人を取り上げても良いのではないか。
- 委員長          それでは、本日の議論はここまでとしたい。  
                  これまでの議論で、報告書の作成イメージが固まってきた。  
                  事務局には、本日の議論を踏まえて、更に報告書（案）を練っていただきたい。  
                  また、次回、今後の検討事例を決定する。そのため、委員の皆さんには、資料2「検討事例（案）」を参考にしながら、今後取り上げたい事例を事前に事務局へ連絡していただきたい。  
                  今回は、2月19日（木）に開催する。これで第14回委員会を閉会する。

□閉会